

Title	イングランドの家具・室内装飾パターンブック, 1750-1850年 : 共有されたデザインと技術
Author(s)	真保, 晶子
Citation	デザイン理論. 2013, 62, p. 27-40
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/56271">https://doi.org/10.18910/56271</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# イングランドの家具・室内装飾パターンブック, 1750-1850年 — 共有されたデザインと技術 —

真 保 晶 子

キーワード

家具デザイン, 18・19世紀イングランド, パターンブック, デザインの意義

furniture design, eighteenth- and nineteenth- century England, pattern books, the meaning of design

序

1. 家具パターンブックの出現

2. 選択と裁量 — パターンブックの柔軟性

パターンブックの出版の背景と職人出身の著者たち  
読者の参加

3. 共有されたデザイン

オリジナルかコピーか? — 18世紀末の家具デザインに関する現代の議論

家具のデザイン — 共有財産としてのデザインと技術

結 論

## 序

デザインの見本に技術解説が付された家具とインテリアのパターンブックは、イングランドにおいては1750年代から1850年くらいまで盛んに出版された。従来の美術史の手法による家具史研究においては、これらは単に当時のスタイルを示すための視覚史料として補助的に用いられてきた<sup>1</sup>。しかし、その序文・解説文も含めて詳細に分析することで、当時の制作者がとらえていた「デザイン」という概念の側面が浮き上がってくるはずである。パターンブックの出版の目的についても、職人向けの単なる技術解説、あるいは店の宣伝や顧客開拓の手段として扱う従来の研究<sup>2</sup>に対し、読み直しが求められる。本稿では、18世紀後半から19世紀前半におけるイングランドの家具とインテリアのパターンブックをもとに当時の製造者にとって「デザイン」がどのような意味を持っていたのかを探る。

本稿の第1節では、18世紀半ばのイングランドにおける家具パターンブックの出現を概観する。まず、製造業者による最初の家具専門のパターンブック、トマス・チップendaleの『ジェントルマンと家具製造業者の指標』（1754年）の序文にみられる言葉をもとに、パターンブックが家具製造業全体の発展に役立つことをめざしていた点に注目する。第2節では、パ

ターンブックが示唆するデザイン見本の柔軟な使い方について論じる。まず、職人出身のターンブック著者たちが自らの本を出版する理由として挙げた点を整理する。さらに、ターンブックの序文や図版の解説を分析することで、著者たちが読者にどのようにこれらの本を使うことを期待していたかを探るとともに、そこに示された著者と読者の関係の在り方に注目する。第3節では、ターンブックの序文や図版の解説に表わされた言葉をもとに、当時の家具製造者が考えていたデザインとは何を意味したのかを検証する。18世紀末の家具デザインに関し、オリジナルかコピーかと論争した20世紀の美術史家たちの議論をまず概観する。これに対し、18世紀末から19世紀初めの家具ターンブックの著者たちの言葉に、オリジナルやコピーを超えた共有財産としてのデザインという概念があったことを明らかにする。筆者が研究してきた1750年から1850年の期間にイングランドで刊行された72冊の家具・室内装飾業のターンブックと技術解説書は、主要といわれるものを中心にしているが、当該期間のこの分野の本すべてを網羅するものではない。さらに、そのうち本稿で扱うのは20冊に過ぎない。だが、ここで議論の中心となる本は、購読者リストに見られる広範囲な広がり、同一本の版の多さ、同一著者による著作の多さなどからも、当時の影響力が大きかったことがうかがえる<sup>3</sup>。

## 1. 家具ターンブックの出現

デザインの見本に技術解説が付されたいわゆるデザイン見本帳としてのターンブックは、本稿が扱う家具とインテリア産業に関する限り、1750年代から始まり、1850年くらいまで出版が盛んであった<sup>4</sup>。それまでも建築家による建築デザインの本や、建設業のためのマニュアルブックは多く出版されていたが、家具のデザインがその中に含まれることがあったとしても、重要な扱いをされることもなく、また実用的でもなかった<sup>5</sup>。その意味で、1754年に出版されたトマス・チッペンデルの『ジェントルマンと家具製造業者の指標』は、いわば家具製造業者による、家具製造業者のための最初の家具専門のターンブックといえる本であり、その後の同様な本へも大きな影響を与えた<sup>6</sup>。美術史家による従来の研究は、ターンブックの目的を、職人向けの単なる技術解説、あるいは店の宣伝や顧客開拓の手段として扱っていた<sup>7</sup>。

しかし、チッペンデルの序文にみられるいくつかの点に注目すべきである。チッペンデルの本は、家具製造業者の職業としての確立と発展に役立つことをめざしていたこと、建築家による建築デザインの本への挑戦であったことに加え、このターンブックが家具製造業者と注文客との媒介となることを望んでいた<sup>8</sup>。この3つ目の点について、チッペンデルは、この本が「一方においては選択をする上で、そして他方においてはデザインを製作する上での助けになること」を意図していたと説明する。このチッペンデルのターンブック以後、1760年代には家具製造業者による家具製造業者のためのターンブックの出版が続き<sup>9</sup>、この

時期にひとつのジャンルとして確立し始めた。(図1は一例。)パターンブックは、複雑かつ多様になった消費者からの要求に応えられるような技術とデザインとセンスを学ぶことをも意図していた<sup>10</sup>。

パターンブック著者は、建築家、あるいは職人の修行をした同業者が中心であったが、匿名の者もいたり、有名な作者でも職人出身の者については詳細な記録が乏しい<sup>11</sup>。一方、他のジャンル同様、読者がどのような人々であったかについて知ることも難しい<sup>12</sup>。だが、序文や本文が向けられた読者層を詳細に分析したり、数冊に収められた購読者リストを見ることでだいたいの読者層を推定することは可能である<sup>13</sup>。実際に18世紀末の代表的パターンブックの著者のひとり、トマス・シェラトンの『家具製造業者と室内装飾業の画帳』(1793年)購読者リストが示すように、職人出身の著者によるパターンブックの直接の購読者は家具製造業者や関連業の人々であった<sup>14</sup>。



図1：トマス・チェペンデルの『ジェントルマンと家具製造業者の指標』(第3版, 1762年)に現れる書棚付机のデザインの一部  
(©Victoria and Albert Museum, London)

## 2. 選択と裁量 — パターンブックの柔軟性

### パターンブックの出版の背景と職人出身の著者たち

パターンブックの著者たちが自らの本を出版する理由として挙げた点にはいくつかの共通点が見られる。第一に、従来の建築家による本に収められた家具デザインへの不満、第二に、家具製造業者にとって実用的な家具デザインの本が不足していること、第三に、成長著しい家具製造・室内装飾業の現状へ対処し、両産業の地位を高める必要性といった点が目立つ<sup>15</sup>。さらに彼らは、これらの理由が自分自身だけの個人的な感情によっていたのではなく、同業者の間で共有されており、自らの本の出版が仲間からの要望により後押しされたとも付け加える<sup>16</sup>。その顕著な例が、P.ニコルソンとM.A.ニコルソンが『実用的家具製造業者・室内装飾業者・完全な装飾家』(1826年)の中で産業界での支持を裏付けるために示した同書を推薦する9人の同業者の署名である<sup>17</sup>。

このような出版の背景もあり、多くのパターンブック著者たちは職人にとって実用的であることを強調し、自らの実地の経験を序文や本文においても力説した<sup>18</sup>。ジョージ・スミスは、著書『家具製造業者と室内装飾業者のガイド』(1826年)において、自らの40年の経験と研究を強調し、自分自身の労働の経験に拠る著作が、家具製造業と室内装飾業に関連する事柄に真の実用性を結びつけるものでありたいと表明した<sup>19</sup>。トマス・キングも45年の室内装飾業での経験の間に見た変化を踏まえ、現在が出版に最適な時期だと序文で述べている<sup>20</sup>。このような

著者たちが自らの経験と本の実用性を強調することには、産業内のアイデンティティや一体感を促進させ、読者からの信頼を得る狙いもあったであろう。

さらにパターンブックが著者と読者との双方向の信頼によって成り立っていたことが解説の文脈から読み取れる。パターンブックの著者たちは様々な仕方で職人への期待を表わした。例えば、チッペンデルは図版の解説の中で、頻繁に「独創的な職人」という言葉を繰り返している。「……独創的な職人の手によれば、この椅子の良さを損なわないやり方で彫り物を減らすことも可能だ<sup>21</sup>」, 「……全体の構造は独創的な職人の手にかかればより一層改善されるであろう<sup>22</sup>」, 「……これに関しては解説はいらないだろう。というのはこれがうまく製作できるかは職人の判断しただからだ<sup>23</sup>」。さらにチッペンデルはデザインの細部を読者の裁量に任せてもいた。例えば、「様々なタイプの新しいパターンの椅子」は「このデザインに従って製作され、熟練した職人の手によれば……優れた効果が出るだろう<sup>24</sup>」と述べながら、決定は読者しただいと述べている。「4つの脚は読者がより良い選択ができるよう、すべて異なるものになっている。もしも装飾過多だと思うならば、好みにより省略してよい。」トマス・シェルトンも同様に、その著『家具の辞書』の中で、「私の本の不完全さは間違いないが、製作に至る場合、両部門〔家具製造業と室内装飾業（筆者注）〕の独創的な職人によれば改善可能な物である<sup>25</sup>」。このように、初期のパターンブックの著者たちは単純な解説をする代わりに、職人にそれぞれのアイデアを発展してもらおうよう期待した。

この姿勢はその後の時期のパターンブックにも見られる。1840年代の『実用的装飾と形態』の中で、トマス・キングが提示した助言にも職人の技術と判断への信頼が読み取れる。例えば、整理筆筒の図版の解説で彼はこう説明している。「……物の様相は別の形態により完全に変わってもよいし、もし変えるのでないとしても賢明なやり方で手を加えてもよい、ということに常に思い出すこと<sup>26</sup>」。同時にキングの説明には同業者仲間との対話を想起させるような響きがあることは注目に値する。例えば、同書で彼は頻繁に「もちろん」という言葉を使っているが、これは読者の側に前提となる知識があることを確認したり、適切な判断力があることを期待しながら進めていたことを反映していたようだ。「……もちろんこのセットは部屋の他の家具と、あるいは建物全体と最も調和するように選ばれるだろう<sup>27</sup>」, 「椅子に座る際に邪魔にならないように、〔椅子の背もたれの（筆者注）〕支柱の装飾には、もちろん非常に小さな突起の彫り物を設けるようにしなければならない<sup>28</sup>」。このようにパターンブックの著者たちは職人に向け、それぞれのやり方で細部の決定の判断を任せる形で提案をしたのである。

### 読者の参加

家具のパターンブックの中には同業者の読者の参加に支えられていたことを示したり、様々

な方法で読者の参加を促した箇所も見られる<sup>29</sup>。例えば、シェラトンは著書『家具の辞書』中の「ベッドカバー」(Coverlet, Counterpane)の項でこの語がフランス語から派生した語であると説明した後、この項を書く上で情報を提供してくれた「[ロンドン (筆者注)] チープサイド、アイアンモンガー・レインのカーペンター氏」について言及し、彼の店でも様々な種類とサイズの寝具を購入できると付け加えている<sup>30</sup>。また、同書において、寸法の誤りを指摘してくれた「[イングランド西部 (筆者注)] バースのオーチャード氏」についてもふれている<sup>31</sup>。この人物はバースで室内装飾業を営んでいたオーチャードと推定できることから<sup>32</sup>、シェラトンがこの本を書く上で様々な同業者からの情報提供や指摘を得ていたことがわかる。

シェラトンは同業者の名前だけでなく、彼らの功績についても言及している。例えば、『家具の辞書』中の「ブラインド」の項で、シェラトンは、最新型のブラインドを説明するとき、「最新の改善は [ロンドン (筆者注)] オックスフォード・ストリートのスタップズ氏によるものだ」と述べ、「ばね付き巻き上げブラインド」の解説においても「これらのばね付きブラインドの欠点を軽減するために、スタップズ氏は新しく組み立てられたばねを発明した……」と詳細を解説している<sup>33</sup>。このようにシェラトンの本は関連製造業者の産業全体への貢献も重視した。

さらに、シェラトンの本からは関連製造業者たちとの意見交換を促す努力も見られる。例えば、『家具の辞書』中の「客間用椅子」の項で、「……この類の試みでどの程度私が成功したかは、真正の審判に委ねる」と述べ<sup>34</sup>、また別のベッドの項では、「このひだについては、かなり新しいものだと室内装飾業の人々が喜んでくれるという名誉をいただいている。それに関しては度重なる証言もある<sup>35</sup>」とも記している。これらは、シェラトンの自信と成功にとって他の職人たちの賞賛が重要であったことを示す。

### 3. 共有されたデザイン

#### オリジナルかコピーか？ — 18世紀末の家具デザインに関する現代の議論

パターンブックは模倣するために使われたり、製造業者間の競争を刺激することにつながったかもしれない。有名・無名を問わず、当時の様々な家具メーカーによるデザインの中には、同時代のパターンブックに似たようなタイプがあったことが指摘されている (図2・図3)<sup>36</sup>。美術史家エリザベス・ホワイトが言及しているように、著名なデザイナーやメーカーによって考案されたデザインの多くは、スケッチやドローイングのままで残され、パターンブックのように公表はされなかった<sup>37</sup>。ジョン・リネルと並び、その典型であったギロウは、自社のデザインを社内秘としておくことに注意を払う一方、他者によって刊行されたパターンブックを通

じて新しいデザインを取り入れることに努めていた<sup>38</sup>。

18世紀末の家具デザインにおける「オリジナリティ」に関して、特にヘップルホワイト、シェラトン、ギロウによるデザインに見られる相似性については歴史家の間で議論が交わされてきた。ギロウに関する研究では、ギロウの社内デザインブックに収められたデザインの中に、ヘップルホワイトとシェラトンの刊行されたパターンブックに掲載されたデザインから取ったか大きな影響を受けたものがあると一般に説明される<sup>39</sup>。一方、デザインされた年を比較し、ギロウのデザインのほうがむしろオリジナルであって、ヘップルホワイトとシェラトンがギロウの作品を応用したのだという見方もある<sup>40</sup>。

議論はシェラトンに関する研究の中にも同様に見られる。美術史家ウィルフォード・P・コールとチャールズ・F・モンゴメリはシェラトンのデザインのオリジナル性の可否についてのそれまでの議論を踏まえながら両者の中間の立場を取った<sup>41</sup>。その根拠として彼らが引用するのが、シェラトンがその著『画帳』に託した次のような意図である。「家具の現在のテイストを示すために、そして同時に職人がそれを製造する上での助けとなるように」<sup>42</sup>。コールとモンゴメリは、シェラトンのデザインに見られるオリジナル性と応用（模倣）との間の均衡に注目し、彼が『家具の辞書』においてデザイン源に言及し、自分自身のデザインと他人のデザインとを区別している箇所を指摘した<sup>43</sup>。その例のひとつは、シェラトンが女性向け針仕事用の袋が付いたテーブルを説明している次の箇所である。「左側のデザインは [ロンドン (筆者注)] トテナムコート近く、メリルボーン・ストリートのマクリーン氏によって製作されたデザインから取った。マクリーン氏は最も整然とした仕方での小さな品を仕上げている。右側のデザインは純粋に私自身のデザインであり、まだ製造には至っていない……」<sup>44</sup>。コールとモンゴメリの視点は、どちらか一方が「オリジナル」でもう片方が「コピー」だという二分法に陥ることなく、18世紀末の家具デザインにおけるオリジナル性とその応用との間の均衡に注目を促した点では意義がある。

### 家具のデザイン — 共有財産としてのデザインと技術

しかしながら、シェラトンの言葉をもう少し詳しく見ていくと、彼のデザインが「オリジナ



図2：洗面台（1780-1800年頃、イングランド、製作者不明）  
©Victoria and Albert Museum, London



図3：肘掛け椅子（1790年頃、イングランド、セドン社製作）  
©Victoria and Albert Museum, London

ル作品」とその「応用品」、あるいは両者の間の均衡という点からだけでは説明できないことに気がつく。むしろ、シェラトンの「デザイン」への見方は、より幅広い考え、いわば異なる人々による共同制作といえるような概念に基づいていたようにみえる。例えば、「揺りかご」の項目で、シェラトンは別の家具製造業者によるオリジナルのデザインおよびそのデザインと自分自身のデザインとの違いを説明しただけでなく、その製造者によって示された提案をも次のように紹介した。「このベッドは [ロンドン (筆者注)] ドゥルリー・レイン、キング・ストリート のホリンシェイド氏によって製造されているが、彼のものはここに掲げたデザインが想定するよりも簡素なスタイルで値段も安い。天蓋の代わりに彼は簡素な屋根を使っている<sup>45)</sup>。さらに揺りかごの構造を説明し、次のように続けた。「もう少し時間をかければ、1時間半の間、揺り動き続けるようなものをつくることができるようになるだろうと彼は教えてくれた。」この一節からも、シェラトンが他の家具製造業者とアイデアを共有しようとしていたことが読み取れる。

シェラトンが産業全体で知識や技術を共有したいと考えていたことは、彼の著『家具の辞書』の序論において、産業内の「ある人々」を批判していることから明らかである。「彼らは生半可な知識を得て、批評家きどりを始め、自分たちに知識を授けてくれた人たちのその手にかみつこうとまでする……そのような人々は知識をもたらしてくれた仕事に感謝するということがまるでない、と彼らの隣人たちの目には映るかもしれない……<sup>46)</sup>

ここから、クラフトの知識が産業内で共有されていたある種のルールであったということが浮かび上がってくる。それは、彼らが得た知識が自分自身のものではなく、他の職人たちによって授けられ、伝達されるものであったことを認識すべきだという主張に表われている。もしもこれらの「ある人々」が、自分たちの知識が他の人々から得たものに負っているということ認めず、最上級の技術を持っていると装うのだとしたら、「彼らの隣人たち」、つまり産業というコミュニティが彼らを受け入れないであろう、ということになる。

実際、シェラトンは前著『画帳』の中ですでに、同業者間で知識を共有すべきだということを次のような言葉で提示していた。

自分自身の財産として、それで生計を立てている者として、知識を自分のためだけにとっておくことが必要な場合もあるかもしれない。しかし、同業で情報交換することが不適切な行為だとは私は思わない。技術が秘密事項に拠っている職業では、部外者からそれを守る権利があるかもしれない。だが、家具製造の技術ではあまりにも実践に基づくことが多いし、あまりにもたくさんの道具の使用を要するのだから、関係ない者が盗もうにもそう簡単に盗めるわけではない……<sup>47)</sup>。



これらのコメントから、職人出身のシェラトンが自分のデザインのオリジナリティに固執することも、家具産業関係者に自分たちの知識を囲い込ませることも望んでいなかったことが明白に伝わってくる。彼の本がその代わりに推し進めようとしたのは、デザインを同業者間で共有する知識としてとらえる考え方であった。

これに共通した考えは他の本にも見られる。ピーター・ウィーバーの『家具製造業者のガイド』はデザインパターンの図版を含まず、文章のみにより技術解説を記した著作であるが、その第2版（1809年）の中で、彼の本を通してクラフトの知識を学ぶことは産業が主張し得るに当たる不可譲の権利だとさえ述べる<sup>48</sup>。第5版まで版を重ねたこの本は、クラフトの知識を共有の財産とする見方を強調するものであった<sup>49</sup>。『家具と室内装飾のドローイング基礎』（改訂第2版、1822年）において、著者リチャード・ブラウンもまた、他の製造業者について次のように言及し、自らのデザインの拠り所に敬意を払いながら次のように表わした。「[ロンドン（筆者注）] エッジワード・ロード、ジョン・ストリートのロジャース氏のものに倣ったデザイン。彼の装飾は自由さ、鮮明さ、そして製作の正確さにおいて間違いなく無比のものである」<sup>50</sup>。

この共有された知識としてのデザインという伝統的概念は、さらに時代を下った1840年代の室内装飾業職人委員会によっても表明された。1844年に「産業の成員に情報を広め、デザインの勉強を促進するために」ロンドンに組織されたこの委員会では、ドローイング、インテリアデザインの歴史、幾何学と遠近法、模写、デザイン実習のクラスなどを提供していた<sup>51</sup>。なぜこのような勉強が必要かについて委員会は次のように述べた。「……この産業の高度な分野についての知識について徹底的に精通しているのは我々のうち比較的少数の者たちしかいない。色彩の調和、形態とデザインの優雅さなどは我々が注意を払ってこなかった点である……これらの芸術的な分野はこの産業の未来の繁栄と改善に必然的に密接な関係がある……」<sup>52</sup>このように彼らもまたデザインを学ぶことはひとりひとりの成員のためだけでなく、産業全体のために必要だと考えていた。パターンブックの著者たちが著した共有された知識としてのデザインという考えは、少なくとも1840年代半ばの産業内にも存続していたといえる。

一方で、1840年代以降のパターンブックの中には、職人個人のオリジナリティを奨励するもの<sup>53</sup>、さらにブラッキー社の『家具製造業者のアシスタント』（1853年）に見られるように、量産向けデザインを目的とした「コピーブック」といわれるようなものが出現する<sup>54</sup>。そして各家具製造販売会社による個別の製品カタログの発行も1850年代から一般的になり<sup>55</sup>、同業者間の対話と個々の応用・工夫を促す「18世紀的」なデザイン共有の媒体としてのパターンブックは衰退していく。

## 結 論

本稿では18世紀後半から19世紀前半におけるイングランドの家具とインテリアのパターンブックをもとに当時の製造者にとって「デザイン」がどのような意味を持っていたのかを探った。パターンブックの目的を、職人向けの単なる技術解説、あるいは店の宣伝や顧客開拓の手段として扱う従来の研究に対し、本稿ではその見直しを行なった。まず、パターンブックの著者たちは、出版の目的として、成長著しい家具製造・室内装飾業の現状へ対処でき、両産業の地位を高める必要性を挙げた。そのため、多くのパターンブックは職人にとって実用的であることを強調したが、それは著者の実地の経験に言及しながら説明することにとどまらなかった。文脈から読み取れるように、パターンブックは著者と読者との双方向の信頼を前提としていた。つまり、パターンブックの著者たちは、単純な解説をする代わりに、職人の創意を期待し、デザインの細部を読者の裁量に任せることで、職人に自分たちのアイデアを発展してもらうよう促したのであった。さらに、パターンブックは同業者の読者の参加によって支えられていた。著者たちは本を書く上で同業者や関連業に携わる人々からの情報提供や指摘を得ていたことや、関連製造業者の産業全体への貢献を紙面で紹介するとともに、関連製造業者たちとの意見交換を促すことも試みた。

パターンブックのこれらの特徴は、現代で考えられている「デザイン」の意味を当時の文脈においてとらえ直す必要があることに気付かせる。本稿の第3節で概観したように、18世紀末の家具デザインにおける「オリジナリティ」に関し、20世紀の歴史家たちの間で交わされた議論には、どちらか一方が「オリジナル」でもう片方が「コピー」だという二分法か、あるいは互いに影響を与え合ったという主張がみられる。これらが基づいているのは、デザインとはデザインした者個人あるいは属する会社の所有物だという前提が当然ながらある。しかし、パターンブックの著者たちの言葉を詳しく見ていくと、彼らのデザインが「オリジナル作品」とその「応用コピー品」あるいは両者の間の均衡という点からだけでは説明できず、むしろ、異なる人々による共同制作といえるような概念に基づいていたと考えられる。その後のパターンブックの中には、職人個人のオリジナリティを奨励するもの、逆に量産向けのデザインを目的としたものが出現し、さらに、各社個別の製品カタログの発行も1850年代から一般的になり、柔軟なデザイン題材としての18世紀型パターンブックの役割は失われていく。だが、少なくとも、本稿で扱った時期のパターンブックの著者たちは、他の家具製造業者とアイデアを共有し、デザインを同業者間で共有する知識としてとらえる考え方によって、この時期にイングランドの家具デザインの発展の礎を築いたのであった。

謝辞：本稿をまとめるにあたり，本誌編集委員会事務局の先生方のご助力，ならびに査読委員の先生方からいただいた貴重なご助言に心より御礼申し上げます。

#### 註

- 1 以下，特に明記しない限り，英語文献の出版地はすべてロンドンである。パターンブックを当時のスタイルを示す視覚史料として扱った例として，P. Ward-Jackson, *English Furniture Designs of the Eighteenth Century* (1958). E. White (ed.), *Pictorial Dictionary of British Eighteenth-Century Furniture Design: The Printed Sources* (Woodbridge, 1990) は，主要パターンブックから項目別にイラストレーションと説明を抜粋し，解説も加えたりファレンスブック。
- 2 C. Gilbert, *The Life and Work of Thomas Chippendale* (1978), p. 65; White (ed.), *Pictorial Dictionary*, p. 13.
- 3 例えば，トマス・シェラトンの『画帳』の購読者リストから購読者層の地理的分布を分類すると，ロンドンとその周辺その他，イングランド各地方およびスコットランドへの幅広い分布が確認できる。T. Sheraton, *Cabinet-Maker and Upholsterer's Drawing Book* (1793-4), pp. xxi-xxxii. また，トマス・キングは，筆者の研究で参照しただけでも，1830年代から40年代の期間に8冊の本を出版している。そのうちの1冊 *The Upholsterer's Accelerator* (c.1833) は，1848年に再版されている。
- 4 家具とインテリア産業のパターンブックの分析については，A. Shimbo, 'Pattern Books, Showrooms and Furniture Design: Interactions between Producers and Consumers in England, 1754-1851' (Ph.D. thesis, University of London, 2007), chapters 2, 3; A. Shimbo, 'Two Groups of Readers: "Interactive" Use of Furniture Pattern Books in England, c. 1750-1850', in K. Kondo and M. Taylor (eds.), *British History 1600-2000: Expansion in Perspective: Proceedings of the Sixth Anglo-Japanese Conference of Historians* (2010), pp. 237-46; A. Shimbo, 'Networks for the Design Process: Furniture-Makers and Consumers in England, c.1750-1850' in H. Hackney, J. Glynn, and V. Minton (eds.), *Networks of Design Proceedings of the 2008 Annual International Conference of the Design History Society (UK)* (Florida, 2009), pp. 492-7.
- 5 Gilbert, *Life . . . of Chippendale*, p. 77. 例として，W. and J. Halfpenny, *New Designs for Chinese Temples, Triumphal Arches, Garden Seats, Palings & c . . . (4 parts in 1), Pt. 4. New Designs for Chinese Gates, Palisades, Stair-Cases, Chimney-Pieces, Ceilings, Garden-Seats, Chairs, Temples, & c.* (1752), Part 4 のほとんどの図版は，建物の平面図・立体図であって，椅子や腰掛の短い説明があるだけである。
- 6 T. Chippendale, *The Gentleman and Cabinet-Maker's Director* (first edn, 1754); Gilbert, *Life . . . of Chippendale*, pp. 65-92; White (ed.), *Pictorial Dictionary*, p. 19.
- 7 例えば，Gilbert, *Life . . . of Chippendale*, p. 65; White (ed.), *Pictorial Dictionary*, p. 13.
- 8 Chippendale, *Director*, pp. iii-vi. 直後の引用1か所も同じ出典。

- 9 例えば, W. Ince and J. Mayhew, *The Universal System of Household Furniture* (1762); J. Crunden, *The Joyner and Cabinet-Makers' Darling* (1765); R. Manwaring, *The Cabinet and Chair-Maker's Real Friend and Companion* (1765).
- 10 T. Malton, *A Complete Treatise on Perspective* (1775), p. 230; T. Sheraton, *Cabinet-Maker and Upholsterer's Drawing Book* (1793-4), pp. 76-7; G. Smith, *The Cabinet-Maker and Upholsterer's Guide, Drawing Book and Repository* (1826), p. 63. また, 真保晶子「生産者と消費者の対話としてのデザイン — 18世紀後半イングランドの注文家具生産の事例 —」, 『デザイン史学』, 第9号 (2011年), pp. 101-5.
- 11 White (ed.), *Pictorial Dictionary*, pp. 33-58. 例えば最も有名なパターンブックのひとつの原著者ジョージ・ヘッブルホワイトでさえ詳細が不明である。J. Aronson, 'Introduction', to repr. of Hepplewhite, *The Cabinet-Maker and Upholsterer's Guide: The Third Edition of 1794* (New York, 1969), p. v. 匿名の著者によるパターンブックの例としては, Anon., *The Principles of Drawing Ornaments Made Easy . . . with Instructions for Learning without a Master: Particularly Useful to Carvers, Cabinet-Makers . . .* (c. 1780), titlepage; Anon., *Ideas for Rustic Furniture* (c. 1790).
- 12 Shimbo, 'Two Groups of Readers', pp. 237-46.
- 13 Shimbo, 'Pattern Books, Showrooms and Furniture Design', Chapter 3.
- 14 Sheraton, *Drawing Book*, subscribers' list. シェラトンの購読者リストは, 大多数の購読者, 全体の72.2%が家具製造業者であった。最上流の顧客を相手にする建築家ウィリアム・チャンバースの建築・家具調度品パターンブックの読者層に関し, Shimbo, 'Pattern Books, Showrooms and Furniture Design', pp. 92-5.
- 15 例として Chippendale, *Director*, p. vi; Ince and Mayhew, *Universal System*, p. iii, iv; T. Sheraton, *Cabinet Dictionary* (1803), p. iii; Smith, *Cabinet-Maker and Upholsterer's Guide*, p. vii.
- 16 例として J. Barron, *Modern and Elegant Designs of Cabinet and Upholstery Furniture* (c. 1811), 'To Cabinet-Makers and Upholsterers in General' [p. i]; T. King, *Designs for Carving and Gilding, Used as Interior Decoration and Furniture* (c. 1830), 'Address' [p. i].
- 17 P. and M.A. Nicholson, *The Practical Cabinet-Maker, Upholsterer, and Complete Decorator* (1826).
- 18 例えば T. King, *Working Ornaments and Forms, Full Size, for the Use of the Cabinet Manufacturer, and Sofa-Maker, Carver, and Turner* (c. 1840s), titlepage. 経験に基づく説明, Sheraton, *Cabinet Dictionary*, p. 136.
- 19 Smith, *Cabinet-Maker and Upholsterer's Guide*, p. vii-viii.
- 20 [T. King,] *Upholsterer's Accelerator* (c.1833), p. iii. この本の実際の著者はトマス・キングといわれている。1848年の別題名・同内容の *The Upholsterer's Guide* にはキングの名が著者として記されている。
- 21 Chippendale, *Director*, p. 8.
- 22 Ibid., p. 22.

- 23 Ibid., p. 24.
- 24 Ibid., p. 7. 直後の引用 1 か所も同じ出典。
- 25 Sheraton, *Cabinet Dictionary*, p. v. 後の時代の例, G. Smith, *A Collection of Designs for Household Furniture and Interior Decoration* (1808), Plate 158.
- 26 King, *Working Ornaments and Forms*, Plate 8 'Commodes'.
- 27 Ibid., Plate 20 'Gothic Mouldings in sets'.
- 28 Ibid., Plate 22 'Upright and Spindles for Chair Backs'.
- 29 具体的な製造業者の名前を挙げて材料を推薦している例, Sheraton, *Cabinet Dictionary*, pp. 65, 262.
- 30 Ibid., p. 182.
- 31 Ibid., p. v.
- 32 G. Beard and C. Gilbert (eds), *Dictionary of English Furniture Makers, 1660-1840* (1986), p. 664.
- 33 Sheraton, *Cabinet Dictionary*, pp. 57-8. スタップズは, この本に収められた「ロンドンおよびその近郊の家具製造業者・室内装飾業者・椅子製造業者のリスト」に名が挙げられている。Ibid., p. 440.
- 34 Ibid., p. 202.
- 35 Ibid., p. 214.
- 36 所蔵館のヴィクトリア&アルバート美術館は, 図2の洗面台(製作者不明, 1780-1800年ごろ)について, 同じようなタイプのものがシェラトンの『画帳』(1792年)にも見られると指摘する。Washstand (Museum number: W.29-1919) Description: <http://collections.vam.ac.uk/item/O111129/washstand-unknown/> (アクセス日: 2013年1月13日)。図3の肘掛け椅子(セドン社製作, 1790年ごろ)については, 同じようなタイプのデザインがヘッブルホワイトの『ガイド』(1788年)にも掲載され, 当時人気があったと説明する。Armchair (Museum number: W.2:1-1968), Description: <http://collections.vam.ac.uk/item/O52926/armchair-seddon-sons/> (アクセス日: 2013年1月13日)。
- 37 White (ed.), *Pictorial Dictionary*, p. 11.
- 38 Ibid; I. Hall, 'Patterns of Elegance: The Gillows' Furniture Designs' 1, *Country Life*, June 8, 1978, p. 1613; S.E. Stuart, "E.B. to G.R." A Satinwood Work and Drawing Table by Gillows?', *Antique Collecting: Journal of the Antique Collectors' Club*, 19 (1984), p. 27. ギロウ社のリチャード・ギロウはランカスターからロンドン在住のいとこジェームスヘチッペンデルの本と他の最新のパターンブックを送ってくれるよう手紙で依頼している。City of Westminster Archives Centre Gillow Letter Book, 344/164: Letter to James Gillow, 6 July 1760. これについての言及は, S. Stuart, 'Gillow Chairs', in *Gillow Chairs and Fashion Exhibition Catalogue* (Blackburn, 1991), p. 10; Gilbert, *Life . . . of Chippendale*, p. 79.
- 39 例として, S.C. Nichols, 'Gillow and Company of Lancaster: An Eighteenth-Century Business History' (MA thesis, University of Delaware, 1982), p. 62; Hall, 'Patterns of Elegance', pp. 1612-14.
- 40 L. Boynton, *Gillow Furniture Designs, 1760-1800* (1995), pp. 17-18. ギロウをオリジナルとし, ヘッブルホワイトとシェラトンを応用とみなしたそれまでの議論について, リンゼイ・ポイントンはP.

- Macquoid, *A History of English Furniture, IV: The Age of Satinwood, 1770-1820* (1908) と C.F. Montgomery, *American Furniture of the Federal Period* (1966) に言及している。
- 41 W.P. Cole and C.F. Montgomery, 'Preface', to repr. of T. Sheraton's *Cabinet Dictionary* (New York, 1970), p. viii. コールとモンゴメリは、一方にシェラトンのデザインをオリジナルとみなすラルフ・エドワーズ (R. Edwards, *Sheraton Furniture Designs* (1945)) とピーター・ワード・ジャクソン (P. Ward-Jackson, *English Furniture Designs of the Eighteenth Century* (1958)) の主張があり、他方にシェラトンは解釈・応用したに過ぎないとみなすラルフ・ファストネッジの主張 (R. Fastnedge, *Sheraton Furniture* (1963)) があつたと議論を要約する。
- 42 Sheraton, *Drawing Book*, p. 351; Cole and Montgomery, 'Introduction', pp. viii-ix.
- 43 Cole and Montgomery, 'Introduction', pp. vi-vii.
- 44 Sheraton, *Cabinet Dictionary*, p. 292; Cole and Montgomery, Introduction, p. vi. 他にコールとモンゴメリが指摘している例は、Sheraton, *Cabinet Dictionary*, p. 186; Cole and Montgomery, 'Introduction', p. vi.
- 45 Sheraton, *Cabinet Dictionary*, p. 183. 直後の引用 1 か所も同じ出典。
- 46 Ibid., p. iv.
- 47 Sheraton, *Drawing Book*, pp. 353-4.
- 48 P. Weber, *The Cabinet-Maker's Guide to the Whole Art of Dying, Staining, Varnishing, and Beautifying of Wood . . .* (second edn, 1809), p. 5.
- 49 職人にとっての「財産」としての熟練については、E.P. Thompson, *The Making of the English Working Class* (1963), p. 279; J. Rule, 'The Property of Skill in the Period of Manufacture', in P. Joyce (ed.), *The Historical Meanings of Work* (1987), pp. 99-118; M. Heckscher, 'Gideon Saint: An Eighteenth-Century Carver and his Scrapbook', *Metropolitan Museum of Art Bulletin*, 27 (1969), p. 307. 真保晶子「熟練と19世紀イギリス社会 — 近年の研究から —」, 『早稲田大学社会科学研究所紀要別冊』, 第8号 (2000年), pp. 59-72.
- 50 R. Brown, *The Rudiments of Drawing Cabinet and Upholstery Furniture* (second edn, 1822), pp. 84-5.
- 51 Committee of Journeyman Upholsterers, *An Address of Committee of Journeyman Upholsterers Appointed to Consider the Best Plan of Organizing an Institute for the Diffusion of Information and to Promote the Study of Design among the Members of the Trade* (1844), p. 3.
- 52 Ibid., pp. 5-6.
- 53 政府デザイン学校教師 W.B. スコットによって出版されたパターンブック, W.B. Scott, *Ornamentist or Artisan's Manual* (1845), p. 10. また、同書巻末に掲載された雑誌レビュー記事からの抜粋, *ART-UNION*, April 1844, January 1845 cited in Scott, *Ornamentist or Artisan's Manual*.
- 54 Blackie and Son (ed.), *The Cabinet-Maker's Assistant* (1853) の「コピーブック」としての性格についての指摘は、J. Gloag, 'Introduction', *The Victorian Cabinet-Maker's Assistant* (New York, 1970), p. v.; E.T. Joy (ed.), *Pictorial Dictionary of British Nineteenth-Century Furniture Design* (Woodbridge,

1977), p. xxviii.

- 55 ヒール社のカタログも1850年代から見られる。Victoria and Albert Museum, Archives of Art and Design Heal Papers, Catalogue and Publicity Material Files, 1844-1987, AAD/1978/2/260-2; Vol. 2 Marketing and Public Relations Records, [c.1850]-1988, AAD/1994/16, 'Catalogues, 1852-95'.